

〔倭訓栞伊中編二〕いしぶね。石船の義、新續古今長歌に、おもきいはほをつむ舟の、武備志に、運石者謂之山船と見えたり、源氏にいふ、いし舟は、魚を網にてとるに、石をもて驚かすがために、舟に石を入たる也。

〔和漢船用集舟名數海鮑〕石船。漢に山船と云、武備志に曰、運石者謂之山船と見へたり、本邦みな

其ところ名を呼て舟の名とす、海河處々に有、其品同じからず、攝州御影村の舟、尤多し、傳道に類す、御影舟と云、又播州立山石を積舟、少し異也、紀州石舟あり、

〔和漢船用集舟名數江湖川船〕石舟。海船の部にも載す、攝州川舟の石舟、是を團兵衛と云、尤荷舟過書の大船をも、呼て團兵衛船といへり、此石舟は、船側の上に板を敷ならべ、釘付にして、其上に石をのせて運送するの舟也。

〔和漢船用集舟名數江湖川船〕土船。諸國にあり、攝州にて呼所は、山土赤土を運送するの舟也、

〔享保集成絲綸錄四十二〕寛文六年正月

一江戸中土取舟砂取舟に、自今已後、小屋掛仕間鋪候來二月朔日より、御改被成候間、若左様之舟有之ば、舟は御公儀へ御取上ゲ被成、舟主は曲事に被仰付候間、左様相心得可申事、

正月

〔諸造船式圖〕主艦船。俗ニ土舟ト云

上口凡長二丈八尺位、横八尺位、

似土船。俗土舟ト云

上口凡長二丈八尺位、横八尺位、

船艦船。俗ニ土舟ト云

上口長二丈四五尺、横七尺餘、